

# 英語科教育法 I (第 5 講)

英語教授法



# 目次

- ▶ 演繹法と帰納法
- ▶ 様々な教授法
- ▶ コミュニケーション主体の教授法
- ▶ タスクベースの言語指導
- ▶ Total Physical Response (全身反応教授法)



# 演繹法と帰納法

- ▶ 演繹法：文法規則などを最初に教えて、それを様々な文脈で使えるように練習して応用してゆく方法である。
- ▶ 帰納法：ある文法規則の例をたくさん例示して、学習者はそれらを理解してそれらに共通することを見いだす。それが一般的な文法規則であることを推測する方法である。
- ▶ この両方の方法を駆使して、学習者の理解度を高めてゆくことが望ましい。初心者の場合は、すぐに帰納法を用いるのは難しい面がある。



# 意図的学習と偶発的学習

- ▶ 意図的学習：学ぶことを意図して学習に取り組む。
- ▶ 偶発的学習：学ぼうと意識しないのに身につけてしまう学習である。
- ▶ 英語の力を付けたいと参考書を買ったり、講習会に行ったりすることで英語の力が付くことである。
- ▶ アメリカ経済を勉強しようとして勉強していたら、いつのまにか英語の力もついたということが該当する。



# approach, method, technique

- ▶ 教授法と指導法：教授法とは、言語観や言語教育の目的に関する理論的な立場に立っている。指導法はそのような理論を持たないで日々の授業の活動を示す。
- ▶ 教授法と言っても、大きく分けるとアプローチ、メソッド、テクニック（approach, method, technique）と3種類がある。approach が最も基本であり、method, technique と次第に技術的な要素が強まってゆく。
- ▶ テクニックはより狭い分野の応用技術という要素がある。
- ▶



# 文法訳読法

- ▶ これは元来は、ギリシア語やラテン語の学習のために使われた古典的な方法である。
- ▶ 長らく日本でも使われた教授法であり、現代ではあまり推奨はされていない。



# コミュニケーション重視の英語教育へ

- ▶ 学校で取り組まれている教授法
- ▶ オーラル・アプローチ
- ▶ コミュニカティブ・アプローチ
- ▶ ナチュラル・アプローチ
- ▶ タスク中心教授法
- ▶ 内容中心教授法(Content-based instruction=CBI)
- ▶ 内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning=CLIL)



# 英語教授法に関する視点

- ▶ 教授法を区別する視点
- ▶
- ▶ 文法・構造中心／機能中心
- ▶ 思考中心／習慣形成
- ▶ 学習者中心／指導者中心
- ▶ 具体的な教授法



# 様々な教授法

- ▶ 1) 文法訳読法
- ▶ 2) オーラル・メソッド
- ▶ 3) 全身反応法(TPR; Total Physical Response)
- ▶ 4) ナチュラル・アプローチ(The Natural Approach)
- ▶ 5) 口頭教授法(Audio-Lingual Method/ Oral Approach)
- ▶ 6) 認知主義教授法
- ▶ 7) 人間主義的教授法 (Humanistic Approach)
- ▶ 8) コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(Communicative Language Teaching)



# Direct Method

- ▶ 直接法で、ナチュラルメソッドとも呼ばれる。
- ▶ 学習者の母語は使わない。
- ▶ 少人数クラスで、教師と学習者が質問と返答を繰り返すことで学習していく。
- ▶ 文法は帰納的に教えられる。
- ▶ 具体的な語彙はデモンストレーション(パントマイム等)、もの(教材)、絵などを通して教えられる。
- ▶ 授業中は学習者はできるだけL2で話すことを奨励される。
- ▶ GDM(Graded Direct Method)



# Oral Method

- ▶ Harold E. Palmer が日本に導入した。
- ▶ 英語は音声で習得すべきと考えた。
- ▶ 英語の音に慣れること。
- ▶ 直接聞いて、直接理解すること。
- ▶ 直接読んで、直接理解すること。
- ▶ 口頭による問答の練習をすること。



# Audiolingual Method

- ▶ フリーズメソッド、ミシガンメソッドとも呼ばれる。
- ▶ 行動主義理論に基づいている。
- ▶ 言語習得は習慣の形成であり、基本文型の徹底的な反復練習を行って、言語習慣を作りあげる。
- ▶ Palmer の方法と共通点がある。音声の反復練習をすることに重点を置く。



# Communicative Approach

- ▶ L2を使う機会を教員は与える。
- ▶ 学習者の不完全な発話は矯正すべきとは考えない。自然と修正することを目指す。
- ▶ タスクベースの学習
- ▶ information gapを与える。
- ▶ role play等を行う。



# タスクベースの言語指導

- ▶ 学習者が学ぶべきものは特定の言語構造ではなくて、解決しなければならない課題や完了すべきタスクが与えられる。
- ▶ 例えば、「列車の時刻表の情報を見つける」というタスクをすることで、必要な問いかけをする。たとえば、「列車はいつ東京駅を発ちますか？」という質問をしたり答えたりすることで、動詞の時制を学習することができた。
- ▶ TBLは学習者にとって楽しみになる。



# 内容言語統合型学習

- ▶ Content and Language Integrated Learning (CLIL)
- ▶ 英語を単に教えるのではなくて、ある教科を英語で教えることで、その教科と英語を教えることができる。たとえば、理科を英語で教えると、理科だけでなく、自然と英語を知ることができるようになる。



# Total Physical Response (全身反応教授法) TPR

- ▶ TPR は Total Physical Response (全身反応教授法) を略した呼びかたである。話すことよりも、命令を聞いて全身で反応すること、また理解することを優先させる方法である。聞いた言葉を身体全体で反応することから、このようなネーミングとなった。
- ▶ 1960年代にJames J. Asherが提唱した指導法である。
- ▶ 次のような語句を聞いて学習者は身体で示す。
- ▶ Stand up.
- ▶ Shake hands with your friend.
- ▶ Tap your shoulder.
- ▶ Greet your partner.



# 課題

- ▶ ダイレクトメソッドの問題点は何か。
- ▶ Total Physical Response (全身反応教授法) を行うとして、どのような指示を子どもたちに出すか、5つほど挙げよ。
- ▶ information gap とは何か。

